

【今の特集】「ジェネリック医薬品」って？

医薬品は大きく2つに分類できる事を御存知でしょうか？ひとつは「一般用医薬品」として薬局で買求める事ができるくすり。もうひとつは「医療用医薬品」といい、医療機関で診察を受ける時に医師から処方されるくすりです。この医療用医薬品はさらに2種類に分類されます。大変なコストと時間をかけて研究、開発される「新薬」として「新薬」の特許が切れた後、開発メーカー以外にも製造・販売が認められるくすり、これが「ジェネリック医薬品」です。医療機関で「おくすりをもらおう」と「おくすりのしおり」といった説明書が付いてきます、くすりの効果や飲むタイミングが書かれていますが「新薬」が「ジェネリック」かまでは書かれていません。その為、私たちが日常的に「ジェネリック医薬品」を意識する機会はまだ少ないと思われまふ。「ジェネリック医薬品」の薬価は、新薬の約4~8割といわれます。通常、新薬を世に出すには150~200億円の開発費と、10~15年の開発期間がかかります。これに対し「ジェネリック」はその成分・品質が新薬と同等であることを証明するテストをクリアすれば良いのです。かかる費用は数千万円。この開発費用の差が薬価の差となるのです。「価格が安い分、品質が悪いのでは？」そんな心配は無用です、「ジェネリック」も新薬と同じ様に薬事法によって有効性・安全性を確保するように厳しく規制され、一旦販売が認められた後も変わらず品質が維持されているがチェックされます。2002年に国の方針として「ジェネリック医薬品」の使用促進が掲げられたのを機に国立病院や大学病院などで採用が相次ぐようになり、又2006年4月からは医師が処方せんに合意のチェックを入れれば患者の希望によって「ジェネリック医薬品」を手渡してもらう事ができるようになり、年々増え続ける医療費を抑える為にも国は価格が低く安全な「ジェネリック医薬品」を推進して行く姿勢にあります。もちろん、世の中にある病気を克服する為にはこれまでにない効果目の新薬を開発する事は必要です。ただし、おに一定の効果が認められ多くの患者にも使われているくすりであれば、患者負担の少ない「ジェネリック医薬品」が使用される事に意義があるでしょう。



2006 11 nov Happy Birthday

- 2斤 杉浦幸子様 86才 中西房江様 87才
- 3斤 中林きぬえ様 95才 岩松みちえ様 92才
- 福田かっ子様 92才 魚野実子様 85才
- 幸島ふじ子様 79才

「おめでとう」
 やだな
 年寄りにおめでとうは
 若い人が
 主

11/18(土) 作品展
 / 22(木) 140~ 笑遊亭満楽

みなさん楽しみにしていて下さいね
 御家族、御友人の方にも是非、お越し下さい!!
 お待ちしております

① ♡ 4 劇場 B
 11月18日は
 いのこし作品展

②
 今年ほどんた
 作品がある
 んやろ

③
 まるで芸術の
 宝石箱や

④
 秋のたけ